

ぶらりわが街宮沢界隈

(1) 一 滝山合戦で兵火による神社焼失 「大神町」— 観音寺・東勝寺(庵)。駒形神社

「東勝庵(とうしょうあん)」(大神町1-4-15)

[本尊] 延命地藏尊(えんめいじぞうそん) [縁日] 8月24日

[由緒・文化財] 慶長年間(1596~1615)に建立された地藏堂。東勝庵の名の由来は、鎌倉時代後期にこの付近に存在した「東勝寺」(現、観音寺)による。同寺は永禄12年(1569)「滝山合戦」で甲斐武田の兵火により焼失した寺で、境内は共同墓地になっており、お堂の前には六地藏や各種供養塔が建っている。お堂の建築年代は未詳であるが、荒廃がひどいため、近年屋根を修復し、本尊は「観音寺」に移され安置されている。

- 「東勝庵の西瓜祭」— 毎年8月24日には、人々の盛んな地藏信仰により盛大な縁日が立って、賑やかな地藏祭が行われ、この季節は西瓜の出盛時期なので、栽培農家の人達は、自作の西瓜を境内で売店を張り、その数列をなしたので、一名「東勝庵の西瓜祭」と言われ、近郷名物の一つで大正時代まで続いたが、今は途絶えた。

「駒形神社(こまがたじんじゃ)」(大神町3-6-8)

[祭礼] 大己貴命(おおなむちのみこと)・少彦名命(すくなひこなのみこと)

[例祭日] 本来は7月25日、現在は8月第3日曜日

[由緒] 旧大神村の鎮守。大己貴命とは大国主神(おおくにぬしのみこと)の別名である、創建年代は明らかではないが、永禄12年(1569)「滝山合戦」で甲斐武田の兵火により焼失されたので、それ以前から鎮座されていた。

馬が交通・運輸で重要な働きをしていた時代、特に江戸時代、馬匹(ばひつ)業者の信仰を集め、近郷近在から満艦飾(まんかんしょく)をほどこした馬を引いてお詣り来て、奉納絵馬(ほうのうえま)も多く、別名を駒形大明神という。

[社殿その他] 本殿は一間社流造、宝暦12年(1762)9月15日再建。拝殿は切妻造。鳥居は銅造の神明鳥居一基、および、寛永3年(1850)9月奉納の燈籠(とうろう)二基がある。

「滝山合戦」で焼失した神社からも、大神村も宮沢村と同様、鎌倉時代から集落を形成し昭島市内では早く開かれた地域です。

- 大神と「鴨(かも)の里」— 「日本霊異記(にほんりょういき)」には、武蔵国多磨郡鴨の里(拝島から大神、田中一帯の地域)の吉志火麻呂(きしひまろ)の悲話がある。「防人(さきもり)として母と九州に赴(おもむ)くが、母を殺して喪に服する名目で、恋しい妻のもとに帰ろうと考えた。しかし、母を殺そうとした時、大地が裂け、転落死した。母は不幸な息子の遺髪を持ち帰り、丁重に供養した」という話で、吉田東伍(よしだとうご)は「大日本地名辞書」で、神(カミ)は鴨(カモ)の転訛(てんか)で、鴨の里が大神になったとした。

記

防犯宮沢支部会計 西山 禎一

